

日本三奇祭

第一一〇回

帚まつり

地域伝統芸能大賞受賞

大井神社

大鳥毛

大奴

長唄屋台踊

島田鹿島踊

元禄大絵巻

三百年の歴史をのせて描かれる

島田大祭

2022年 10/8(土) 9(日) 10(祝月)

島田市本通り及び周辺

■JRご利用の方【JR東海道本線・東海道新幹線】静岡駅から約30分 島田駅下車 掛川駅から約20分



■お車で越しの方



お問合せ 島田大祭保存振興会事務局 TEL.0547-35-3111 (一社)島田市観光協会 TEL.0547-46-2844



URL : http://www.shimada-ta.jp 主催：島田大祭保存振興会 共催：(一社)島田市観光協会 後援：島田市

島田市 茶化画 緑計師

第二〇回

島田大祭

大名行列



お長柄を先頭に、具足、先騎、鉄砲隊、御弓、具足と続き、次が25人の大奴。腰の木太刀には豪華な帯が飾られています。

大奴



大奴は神輿渡御の警護役で、大名行列の花形です。25人の大奴は左右に一問(約1.8m)近い木太刀を突き出し、その柄に見事な丸帯を掛けます。

島田鹿島踊



延宝年間のこと、疫病が蔓延したため、大井神社の境内に春日神社の神霊を奉じ疫病退散を祈願しました。これが鹿島踊りの起源です。

お殿様



しぶい声で見事な節まわしの歌が歌われる中、大勢のお供にかしずかれた、かわいいお殿様が馬に揺られて行きます。

神輿渡御



女神様の神輿を担ぐ若者は16人。重さはなんと約400kg。大井神社をスタートし、お旅所へと静かに歩きます。

大鳥毛



大鳥毛は赤い房と頭の部分があり、上部を「矛(ほこ)」と呼んでいます。天空の悪鬼を倒し世に平和をもたらすものといわれています。

長唄屋台踊



舞台踊りを「上踊り」、地上踊りを「地踊り」と呼びます。東西一流の長唄の芸人衆が島田に呼び寄せ、5台の屋台が三日三晩芸を競い合います。

本陣入り



暗闇の中、スポットライトに浮かび上がる本陣。提灯が一行に並び、篝火が焚かれます。お供を従えたお殿様が本陣へ入場します。

東海道の宿場町として栄えた静岡県島田市。元禄8年に始まって以来、本年度第二〇回目を迎えます。その昔、島田に嫁いできた花嫁は、晴れ着姿で大井神社へお参りし、その姿で町を歩き披露するのが習わしとされてきました。それは気の毒ではないかと花嫁を気遣う心から、女の命「帯」を大奴が木太刀に飾り、安産祈願とあわせて、人々への披露を行うことになりました。そうなるに親たちは嫁入り道具の中でも特に気を配るようになり、娘を気づかい、はるばる親が来る。逸品を見ようと商人が来る。さながら帯のファッションショーとなったのが帯まつりの始まりです。

会場のご案内



◆大井神社のいわれ◆

古い記録や言い伝えによると、大井川上流の川根本町大沢から大雨によって運ばれてきた神様が島田に留まり、鎌倉時代以降現在の御飯屋町に祀られた。その後、慶長年間の水害で野田の山に避難し、元和年間に再び戻され、1689年ごろに現在の場所に落ち着いたと言われている。大井神社の祭礼は1695年(元禄8年)より下島の元の境内を「御旅所」として、三年に一度、神様が神輿に乗って里帰りすることから始まった。

駐車場

大井川緑地公園無料駐車場からJR島田駅南口までシャトルバスを運行します。